



8月という月



今年の8月1日で私は満86歳になった。8月は私の生まれた月。今年の8月は終戦から80年である。終戦の月である。そして盆（^{うらぼん}孟蘭盆・陰暦7月15日中心）の月である。

「戦後80年」とか「終戦から80年」の大見出しを付けた、先の大戦に関する新聞記事が今年は例年に比べて取り分け多かった。毎日新聞と四国新聞の終戦に関する記事は隈なく読んだつもりだ。これらの記事を読んで、86歳の私なりに感じたことを記してみたい。

まずは8月26日（火）毎日新聞、投書欄の「みんなの広場から」。

聞いた戦争 若い世代に伝えたい 薬剤師 山口裕次 56歳（鹿児島県）

—前略—だが戦後80年の今、原爆が落とされた都市を答えられない人が私の周りにもいる。参院選当選者の「核武装は安上がり」発言にも驚いた。—後略—

広島、長崎へ原爆を落とされたのを知らない大人が居るとは、私には到底信じられない。それほどまでに平和ボケしているのかなあ。困ったことだ。

戦争をすれば今の日常を失う 元小中学校教員 高橋毅 86歳（福岡県）

—前略—11月ごろまでは裸足で通学していた。わらが混入したノートは、鉛筆の先が引っかかり使いにくかった。戦中戦後を経験した私は、戦争をすると、今の日常がなくなる実感を実感次世代へ伝えなければならない。—後略—

私は、高橋さんと同年齢、通学は私は^{わらぞうり}藁草履だった。途中で破れたら持って帰って祖父に見せたら新しいのを下してくれた。雨の日は裸足だった。帰りに雪になっている日は、手に持って裸足で帰った。体育の授業は中学校卒業まで裸足だった。小学校5・6年時、冬は毎日裸足で砂利道（補装道路は無かった）を3000mの長距離走だった。今じゃ足が痛くて走れる子どもは居ないだろう。ノートやテストの紙には、藁の細い筋が入っていて、鉛筆の先が引っかかると紙が破れた。4年生になるとゴム草履が出回り雨でも履くことができた。用紙も藁が入ってない白い紙になった。

8月21日（木）、毎日新聞記者の目 **心に刻み実相理解を**〔原爆投下・さく裂時刻〕

高尾具成 社会部大阪グループ専門記者

「1945年の夏、米軍により、広島と長崎に原子爆弾が落とされました。その日付と投下された時刻を書いてください。」約5年前、関西のある大学で講義を受け持った際、当時20歳前後の学生たちにお願した。「広島8月6日午前8時15分。長崎8月9日午前11時2分。」そう正解したのは回答者74人のうち7人。46人は投下日については正しく記した。他の28人は広島原爆の日時だけだったり、投下時刻に誤りがあったりした。特に長崎原爆については空欄が目立ち、気になった。

4面の半分を占める大きな記事の書き出しである。皆さんは、この数字をどのように評価しますか。私は想像していたよりもかなり低いのでがっかりしました。日本は世界で唯一の被爆国であるという国民の自覚が足りないということに尽きる。これはどこに原因があるのか。やはり教

育に大きな責任があると考えねばならないでしょう。しかし、行政にも大きな責任があると私は考えます。

岩手、釜石にも響くサイレン（記事後半の小見出し）

2011年の東日本大震災から1年後の夏、赴任していた被災地の岩手県釜石市で驚いたことがあった。地震や津波と関係なく、太平洋戦争の犠牲者追悼と平和を願い、黙とうを呼びかけるサイレンが防災行政無線から鳴り響いていたからだ。—中略—サイレンは毎年夏、4度鳴る。7月14日正午のサイレンが鳴る前に「釜石市が1回目の艦砲射撃を受けた日です」。8月6日8時15分の前には「太平洋戦争において、歴史上初めて、広島に原子爆弾が投下された日です」と説明がある。8月9日午前11時2分のサイレンの前には「釜石市が2回目の艦砲射撃を受けた日です。また、広島に次いで長崎に原子爆弾が投下された日でもあります」と伝える。もう1回は8月15日、終戦の日の正午だ。



釜石市に聞くと、50年以上前から続く取り組みという。—後略—

釜石市は市内に鉄鉱の採掘場を持ち、国内で唯一の自給可能な製鉄所のある軍需産業の拠点だった。そのため、7月14日と8月9日の正午から約2時間本州で初めて、米英軍による艦砲射撃の標的となった。

釜石市は軍需産業の拠点だったのだ。私はこの事と併せて、釜石市で50年以上続いている黙^{もくとう}禱を呼びかけるサイレンが4回も、防災行政無線から鳴り響いていた事を、この記事を読んで86歳にして初めて知った。正直なところ驚いたが嬉しかった。今まで知らなかった事が無念でなかった。

8月23日（土）の四国新聞18面に、大きな記事を興味深く読んだ。「対馬丸撃沈81年で追悼、疎開児童ら1500人犠牲」と「三船遭難、海底の船撮影、北海道留萌沖」である。

—前略—対馬丸は44年8月21日、那覇を出港。長崎県に向かう途中の翌22日夜鹿児島県トカラ列島の悪石島沖で、米潜水艦の魚雷攻撃で沈没した。対馬丸には学童や一般疎開者など計1788人が乗船したとされる。名前が判明した分だけで1484人が死亡、うち784人が学童だった。（記事の最後の文）

今年のいつ頃だったか。悪石島^{あくせきしま}で、地震が長期間続いたことがあった。毎日のようにテレビニュースで見っていた。あの時、悪石島の名前を自分がなぜ記憶しているのかがどうしても思い出せなかった。悪石島と対馬丸が結び付かなかったのだ。「年だなあ」とがっかりしていたのだが、この記事を読んでやっと結び付いたのだ。嬉しかった。それにしても、対馬丸沈没、余りにも悲し過ぎるよね。欲を言えば記事文中の「トカラ列島」は地名だから「吐噶喇列島^{とから}」として欲しかった。

「三船遭難」とは、終戦直後の8月22日、南樺太（現ロシア・サハリン南部）南端の大泊港からの引揚船3隻が、北海道の留萌沖^{るもいおき}で、ソ連軍の潜水艦に撃沈され、約1700人が死亡。行方不明になった事件である。記事の中に「事件から80年となった今月22日、留萌市の了善寺

で慰霊祭が開かれた。」の文章を読んだ。ソ連軍の潜水艦に撃沈されたのは終戦の8月15日から1週間も過ぎているんですよ。千島列島を占領されたのも8月15日以後ですよ。日本軍は武器を置いていて戦わなかったんだから。^{はぼまい}齒舞、^{しこたん}色丹を占領されたのは9月3日、4日ですよ。スターリンが、「日本人をシベリアへ送れ」とソ連軍に命令したのも8月15日よりずっと後でしょ。本当に腹が立ちますよね。

記事の中に「札幌市の60代女性は、父と祖母が小笠原丸に乗り、途中の稚内で下船して危機を免れた、と聞いて育ち——」の文を読んで、「大鵬も」とはっと思い出したのだ。

昭和の大横綱、あの大鵬も5歳の時大泊港で父と別れ、母に連れられて小笠原丸に乗り、稚内で下船しているのだ。下船していなければ、大横綱大鵬の誕生はなく、当時を^{ふうび}風靡した「巨人、大鵬、卵焼き」の言葉も生まれなかったのである。



観商高（現観音寺総合高校）時代のバスケット部の1965（昭和40）年前後の教え子が「先生、この記事読んでください」と、8月24日付の「SUNDAY世界日報」を送って来た。2面の「知覧の語り部、特攻隊員の生きざまを伝える 特攻平和会館語り部 川床剛士さん」の記事を心して読んだ。私は知覧の特攻会館へは3度訪ねている。送ってくれた彼女に感謝しつつ、「へえっ、近頃はそうなの」と、記事の中に驚かされた一文がある。

知覧特攻平和会館には年間30万人以上が訪れるが、近頃来館者の意識が変わりつつある。川床さんは学生から「もっと本音を書いた遺書はないんですか」と聞かれたことがある。国のために命を捧げることが理解できないのだ。川床さんは「あなたたちが特攻隊員の心を本当の意味で理解するには、80年前にさかのぼって、当時の教育や社会、文化がどんなものか勉強しないと分からないよ」と伝えているという。

何故私は3回も行ったのか。鹿児島へ行けば、時間を作って寄らないでは帰れなかったのだ。私は見学しながら思ったことは、「自分も、もう15年早く生まれていれば、特攻に志願しただろう」だった。そして、「昭和14年に生まれたから、今があるのです」と天に向かって感謝したのだった。

私の母の姉の長男は特攻で戦死している。この従兄の話を伯母さんから何度聞いたことかと、見学を終えると、しばらくはそんなことを考える日が続いた。

ここまで書いて、「先生、この記事を読んで下さい」と送ってくれた生徒は、伯母さんの家の近所の子だったなあと懐かしいことしきりであった。

今日は8月27日である。8月は終戦の月であるが、お盆（^{うらぼん}盂蘭盆）の月でもある。各々の家には神棚や仏壇があり、「先祖を祀る」という観念が確かに生きていた。今はどうでしょう？少し気になるところである。

最後に1つだけ、質問させて下さい。

^{たいめん}「泰緬鉄道を知っていますか」

（令和7年9月1日）